

論文内容の要旨

報告番号		氏名	加藤 礼識
看護師の就労継続をエンパワーメントする因子についての研究 Study on Empowerment Factors for Career Continuity of Hospital Nurses			

論文内容の要旨

看護師の離職率の高さは世界的な問題となっている。我々が過去に行った研究では、日本国内における看護師の就労の大きな流れとして、6割の新人看護師は大規模病院に就業したのちに、10年以内に200床以下の病院や無床診療所等に再就職をするという流れが示されていた。

病院に勤務する新人看護師の離職の原因としては、多忙による学習および専門知識の習得機会の減少による意欲低下等の指摘がなされている。

本研究では就労10年未満の看護師1000人を対象にWebアンケート調査を実施した。調査項目は、年齢、性別、婚姻の有無、離職経験の有無、等の基本項目と、現在の職場の規模、職場の選択理由、就労継続の意思等である。また、離職経験のある人には、前職場を離職した理由について40項目の中から最大5項目まで選んでもらった。

回収率は96%で、回答者は男性96名、女性817名の合計913名であった。平均年齢は 32.0 ± 6.2 歳である。

本研究では、看護師が離職を選択する理由が6個のクラスターとして分類された。「勤務がきつかった」「とにかく疲れた」「結婚のため」「職場の雰囲気が悪かった」の4項目は単独のクラスターであり、他2つは「労働条件」と「個人的生活要因」に分類されるクラスターであった。看護師の就労継続意欲を維持するためには、それぞれ6個のクラスターに関わる要因の排除をおこない、キャリア向上と充実感の維持の両立には、看護師自身の時間を奪うことなく研究できる環境が必要であると考察した。